

4. 結果

4-1 研究対象者の内訳

回収部数は1,237部であった。性別と所属のないものを無効とした結果、アンケートの有効回答数は1,099であった。回答者の内訳は男性691名(62.9%)、女性408名(37.1%)であった。所属別では、人文社会系564名(51.3%)、理科系462名(42.0%)、医療系65名(5.9%)、その他8名(0.7%)であった。

4-2 アンケートの集計結果

パンフレットに必要と思う内容、および、必要ないと思う内容については、12項目について複数回答可で回答を求めた(図1)。必要と思う内容として最も回答が多かったのは「健康で充実した人生のために」で67.1%、次に「性感染症について」の50.2%、次に「健康は大切(食事、運動、睡眠他)」の49.2%であった。必要ないと思う内容は、図1に示すように少ないことがわかった。

次に、「パンフレットを読んで、もっと知りたいと思った内容、項目を自由に記載してください。」という質問に対して、177名が回答した(16.1%)。

「特になし」や「十分な内容だった」などを除き、具体的な内容が書いてあったものを数えると、回答したのは63名(5.7%)であった。もっと知りたいと思った内容、項目は以下のとおりである。

- ・「健康は大切」の内容をもっと詳しく知りたい。
- ・大学生に多い不健康な生活
- ・健康のための食事についてもっと詳しく書いてほしいと思った。
- ・適切な運動量はスポーツでいうとどれくらいなのか知りたい。
- ・どこからが肥満なのか知りたい。
- ・これから20才になるのでお酒やタバコが気になった。
- ・1ページ目の「まずはこことからだの変化を知ろう!」という箇所の各項目が大体どの年齢に当たるかが分かりにくかったので矢印などをつけていただけるとありがたい。
- ・異性間の悩み、彼女の作り方など
- ・将来設計と異性との関わり方
- ・パンフレットの意図とは違うかもしれないが、避妊の重要性や、万が一暴行にあった時、どの様な対応をとれば良いかを詳しく取り上げてほしい。

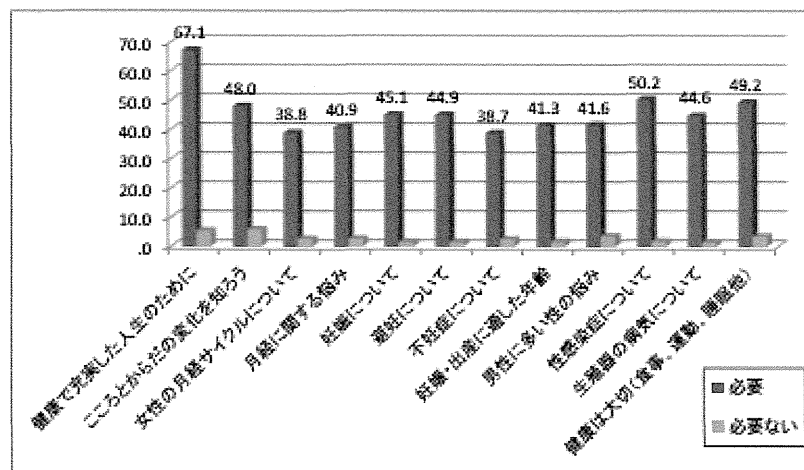


図1 パンフレットに必要/必要ない内容(複数回答可)

- ・子どもを産むために、大学生の生活でしておく
と良いことやしてはいけないこと。
- ・男性・女性の出産に適した年齢について、もっ
と詳しく知りたい。
- ・子育て、家庭生活
- ・自分は重度の月経困難症をもっており、子宮内
膜症、不妊の恐れもあるので、もっと知りたい
と思った。
- ・月経が来ても量が少なすぎて2日程で終わって
しまう場合、婦人科へ行った方が良いかどうか
知りたい。
- ・AIDSのことについて
- ・性感症の写りが欲しい。
- ・性欲とは何故あるのか
- ・性欲の推移
- ・年齢によって不足していく体の栄養分について
それぞれ知りたい。
- ・男性のことはほとんど分からないのもっと知
りたいと思った（女性）。

次に、「パンフレットの改善案（こうすればもっ
とよくなるという具体案）を自由に記載してくだ
さい。」という質問に対して、205名が回答した
（18.7%）。「特になし」や「このままでよい」な
どを除き、具体的な内容が書いてあったものを数
えると、回答したのは79名（7.2%）であった。
パンフレットの具体的な改善案は以下のとおりで
ある。

- ・健康面、心理面にもっと目を向けると良いと思
う。
- ・うつ病についてもっと知りたい。
- ・どの程度の症状で病院へ行けばよいのか、とい
う内容を加える。
- ・具体的な医療施設や公共の運動施設、おすすめ
の運動法、食事例を記載した方がよい。
- ・実生活との結びつきを強調する。
- ・実際の例がもっと多く載っていたら良かった。
- ・育児のこととかも書いてみたらいいと思う。

- ・10代もしくは20代前半における妊娠が社会的
にどう影響するのかということの説明、SEX
のリスクを具体的に。（妊娠した場合の、中絶問
題や世間の目、まわりの人への影響、自身の心
身ストレス）
- ・ある例として実際性交をし、相手を妊娠させて
しまい、後悔した方がいるならば挙げて、その
恐さ、無責任な行動であるということを知らせ
るために例として載せる。
- ・表紙に目次を書くといいと思う。
- ・健康かどうかをチェックできる項目を作り、定
期的にチェックできる内容を作る。
- ・見やすく非常によいと思う。でももらっただ
けでは読まない人もいると思うので大社論で学
習したらよいと思う。
- ・英語版など留学生に対応したパンフレットを発
行。
- ・男性向け、女性向けといった、性別を分けた方
がよいと思う。
- ・女性と男性で文字の色を分けると（赤と青）、男
性のページを見ていると分かりやすいので見る
のがちょっと恥ずかしい。
- ・恥ずかしいと思うことがあると思うので、タイ
トルはもっとオブラートにつつんでほしい。

最後に、パンフレットを宣伝するのに効果的な
方法については、10項目について複数回答可で回
答を求めた。最も多かったのは「授業で配布する」
の58.1%で、2番目は授業で用いられる「ポータ
ルサイトで情報を配信する」の41.0%、3番目は
「授業でアナウンスする」の25.6%と、上位3位
までは授業に関連していた。4番目が「保健管理
センターに置いておく」の24.9%、5番目が「保
健管理センターホームページに掲載」の20.7%で
あった。Facebook、Twitter、LINEでの配信は5.2%、
10.1%、5.7%であり、効果的な方法と考えていな
いようであった。

5. 考察

若い男女に結婚、出産をライフプランの中での重要項目として位置づけさせる目的で作成された教育用パンフレットは、大学生が興味をもてる重要な内容を扱っており、概ね高い評価を得られたと考えられる。大学生は性的な知識の重要性を理解しており、具体的な事例を掲載することを希望するなど関心を示していることがわかった。ただ抵抗感もあるため、自分で資料請求するような方法ではなく、今回のように講義で全員に資料を配布したり、講義で扱うことを望んでいると考えられた。

今回の調査から、大学生は将来の妊娠・出産よりも避妊に興味があることが伺えた。大学生期は異性とのつきあいで成長する時期であるが、恋愛の悩みやDV、ストーカーなどのトラブルが生じることもあり、性感染症や妊娠・避妊について教育が必要な時期である。しかし、性を取り扱う際に生じる恥ずかしさや抵抗感のため、教育が行いにくいのが現状である²⁾。看護系や教育系の学部・学科においては性教育が行われているが³⁾、それは性教育を行う側として覚えておくべき知識として学んでおり、自分のライフプランを考えるというものではなかった。本研究で配布したパンフレットはライフプランの中で妊娠や出産を考えるという構成であったため、恥ずかしさをいくらか減じることができたのではないかと考えられる。

男女別のパンフレットにしてほしいという意見があったが、男性は男性のこのことのみ、女性は女性のこのことのみ知っておけばよいというのは思春期の性教育で行うことである。大学ではパートナーのことをお互いに理解することの大切さを学ぶことを教育目標とし、学生の学習目標として説明した上で、教育することが必要であると考えられる。

6. 結論

教育用パンフレット「知っていますか？男性のからだのこと、女性のからだのこと」には、我が

国の未来を託された大学生が自分のライフプランを考えるための必要な情報が簡潔にまとめられており、大学生自身による評価も高いものであった。

若者を取り巻く、雇用環境や社会情勢は刻一刻と変化している。今回作成したパンフレットは、ライフプランの面からはある程度、完結した内容をまとめられたと考えられるが、今後、キャリアプランも含めた統合的な教材の作成も必要になってくると思われる。今後、このパンフレットを教養教育の現場で活用しつつ、より良い教材として発展させていく努力を継続していきたいと考えている。

付記

本研究は、平成25-26年度厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業)若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究の一部として行ったものである。

引用文献

- 1) 「ライフプランを考えた男女のための健康パンフレット」平成24年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「母子保健事業の効果的実施のための妊婦健診、乳幼児健診データの利活用に関する研究」班。
<http://health-uv.unin.ac.jp/kanren/img/20130616lifeplan.pdf>
- 2) 伊藤弥生、大学生の恥ずかしさと心理的安全性の問題に留意した性教育、日本性科学会雑誌2013 31(1)、77-87。
- 3) 前田ひとみ、高校生と大学生のピアカウンセリングによる性教育の評価、熊本大学医学部保健学科紀要 2008 4、97-105。
- 4) 高橋珠実・北浦佑基・新井徹弘、教育学部大学生の性意識と性行動—健康教育として性教育を考える—、群馬大学教育実践研究 2011 28、121-139。

2. 第33回日本思春期学会総会学術集会抄録集



005

大学生における結婚、出産のライフデザインのための不妊や月経に関する教育の必要性

神戸市看護大学¹⁾、福岡県立大学²⁾
高田 昌代¹⁾、宮下 ルリ子¹⁾、松浦 賢長²⁾

【背景と目的】我が国で急速に進みつつある少子化・晩産化への対応策の一つとして、若い男女が早期から妊娠時期やキャリアデザインなどの人生設計について考えるための機会を提供することが求められている。思春期後期にある女性に不妊や月経への対処に関する教育の必要性やその有効性を考えるために調査を行ったので報告する。

【方法】協力の得られた全国10大学の学生1189人のうち女性914人に、結婚・出産の意識に関する質問と不妊の知識および月経の対処行動に関する自記式質問調査を実施した。その結果に対して、SPSS ver.19を用いて分析を行った。本研究は、平成25年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」のデータを使用した。尚、本研究は岐阜大学倫理審査委員会の承認を得ている。

【結果】大学生女性の89.5%が将来結婚したい、91.1%は子どもが欲しい(2人希望が最多)と答えた。不妊に関する知識では、女性の妊孕力が35歳以上になると低下することを「よく知っている」と答えたのは40.8%、不妊治療の成功率の低下を「よく知っている」と答えたのは30.7%に止まった。月経困難症を経験していると答えているの76.3%におよぶが27.1%は鎮痛剤服用等の対処を行っていない。大学生の結婚・出産に関する意識と不妊の知識および月経の対処行動との関係のあったのは、「子どもが欲しくない」者は不妊治療の成功率の知識が全くないもの、月経困難な時に服薬しないものが有意に高く見られた($p<0.05$)。

【考察】大学生には、結婚、出産のライフデザインのために不妊や月経に関する教育を行う必要があり、不妊や月経の知識があることによって、その人らしい人生を生きることに関わると考える。

3. 第 57 回東海学校保健学会総会プログラム

**第 57 回
東海学校保健学会総会
プログラム**

メインテーマ
生涯健康の基礎を築く学校保健活動

日時 平成 26 年 9 月 6 日（土） 10:00 ～ 18:30
会場 じゅうろくプラザ（岐阜市橋本町 1 丁目 10 番地 11）
主催 東海学校保健学会
（理事長：村松 常司 東海学園大学 スポーツ健康科学部）
会長 山本 真由美（岐阜大学 保健管理センター）
後援 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、静岡県教育委員会、長野県教育委員会、岐阜県学校保健会、岐阜県医師会、岐阜市医師会、岐阜県歯科医師会、岐阜県薬剤師会、岐阜県看護協会、岐阜県栄養士会、岐阜県学校保健管理研究会

セッション 4- 3

高校生を対象とした結婚、出産についての意識調査 —保健の授業で何を教えるべきか？—

○西尾彰泰¹⁾、堀田亮²⁾、佐渡忠洋^{1,2)}、吉川弘明³⁾、足立由美⁴⁾、松浦賢長⁴⁾、林英美⁵⁾、山本真由美¹⁾

¹⁾ 岐阜大学保健管理センター、²⁾ 常葉学園健康プロデュース学部、³⁾ 金沢大学保健管理センター、⁴⁾ 福岡県立大学看護学部、⁵⁾ 千葉県立保健医療大学健康科学部

【背景と目的】我が国で急速に進みつつある少子化・晩産化への対応策の一つとして、若い男女が早期から妊娠時期やキャリアデザインなどの人生設計について考えるための機会を提供することが求められている。高校進学率が 97%を超える日本では、高校生に対して妊娠・出産やライフプランに関する教育を行うことが有効ではないかと期待される。そこで、どのような教育内容が必要かつ有効であるか考えるために、高校生の結婚・出産に関する意識と、それに影響を与える要因について調査・解析を行ったので報告する。

【方法】協力の得られた全国 6 校の高校生 1866 人（男性 1108 人、女性 727 人、無回答 31 人）、平均年齢 16.5 ± 0.83 歳に、結婚・出産の意識に関する質問と、性別・年齢・家族構成、将来のキャリアデザインなどに関する自記式質問調査を実施した。その結果は、JMPver. 10 を用いて交差分析により解析した。尚、本解析は、平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金・政策科学総合研究事業「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプログラム開発に関する研究」のデータの一部を使用し、岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の承認を得ている。

【結果】男性の 72%、女性の 81%が「将来結婚したい」（「結婚したくない」と答えたのは男女ともに 4%程度）、男性の 84%、女性の 87%が「将来子供を持ちたい」と回答した。子供を持つことに対する不安は、圧倒的に経済的問題をあげた者が多く（68%）、妊娠や子育てへの知識や情報不足をあげる者が 2 番目に多かった（33%）。不妊症の定義を知っているのは、25%にとどまり、女性の妊よう力が 35 歳以降低下することを「よく知っている」と答えたのは 17%に過ぎなかった。

【考察】高校生の年代でも、妊娠・妊よう力についての正しい知識が欠如していると推察され、経済や健康など身近な問題を扱いつつながらライフプランを教育することが必要であると考えられた。

B1-1 大学生における結婚、出産についての意識調査—大学の健康教育で何を教えるべきか？

岐阜大学保健管理センター

○西尾彰泰、堀田亮、佐渡忠洋、吉川弘明、足立由美、松浦賢長、猪飼周平、高田昌代、林英美、加納亜紀、磯村有希、山本真由美

キーワード：保健教育、健康教育、妊よう力、妊娠、出産

【背景と目的】

近年、我が国では急速に少子化が進行している。15歳～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した値である合計特殊出生率は、1974年以降、自然増加から自然現象に移行する境である2.07を下回ったまま下降を続け、2013年においても1.43と低値が続いている。また、第1子出生時の母親の平均年齢は、平成23年に30歳を超え、晩産化も進んでいる。晩産化の進行は妊娠適正年齢を逃すことによる不妊を、また晩産化の進行は母体の高齢化によるハイリスク妊娠の増加をもたらす要因の一つとなり、女性や新生児の健康を害しかねない。少子化、晩産化の背景には、社会構造、労働条件、経済状況、個人の価値観など多くの要素が複雑に絡んでいるが、本研究では「身体的に適切な時期に健やかな妊娠・出産を迎えること」と「人生のキャリア形成」に着目し、大学生への健康教育で何を教えれば良いかを検討することとした。そのために、大学生の結婚・出産に関する意識に関するアンケート調査を行い、その結果を解析した。

【方法】

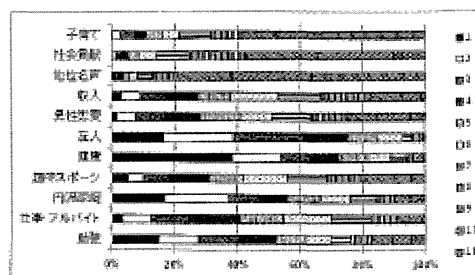
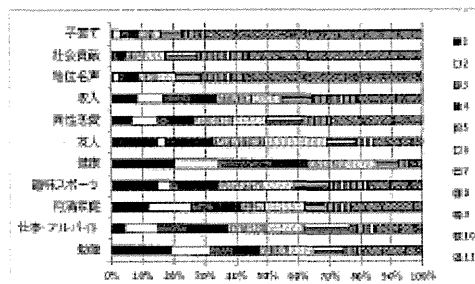
協力の得られた全国10校の大学生1181人(男性267人、女性914人)に、結婚・出産の意識に関する質問と、性別・年齢、家族構成、将来のキャリアデザインなどに関する自記式質問調査を実施し、その結果に対して、JMP ver10®(SAS, 東京)を用いて交差分析を行った。尚、本研究は、平成25年度厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」のデー

タの一部を使用し、岐阜大学倫理審査委員会の承認(承認番号25-268)を得ている。

【結果】

1. 人生の中で重視することを、勉強、仕事、家庭、趣味、健康、友人、恋愛、収入、地位、社会貢献、子育ての11項目の中から順序づけしてもらったところ、「子育て」は、男子学生において11番目、女子学生においても10番目と非常に関心が低く、「健康」に最も関心が高かった(図1)。

図1：人生の中で重視すること(上図：男性 下図：女性)



2. 大学生の結婚希望、育児希望、欲しい子供の人数について聞いたところ、男性の約80%、女性の約90%が結婚を希望しており、結婚を希望しないと答

えた者は5%もいなかった(図2)。結婚希望年齢の平均は男性26.8±2.8、女性25.9±1.9歳であった。また、およそ90%の大学生が育児を希望しており(図3)、希望の子供の数は2~3人をあげる者がほとんどであった。

図2：一生のうちに結婚を希望しますか？

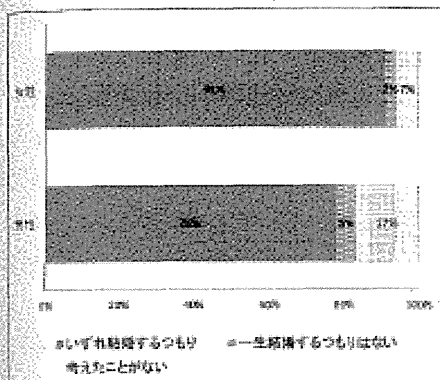
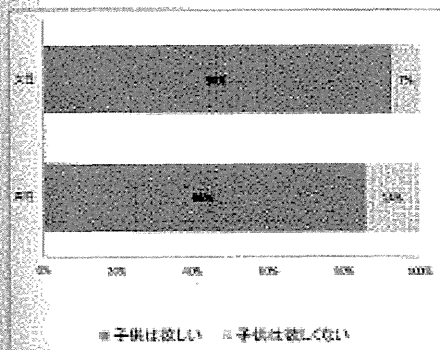


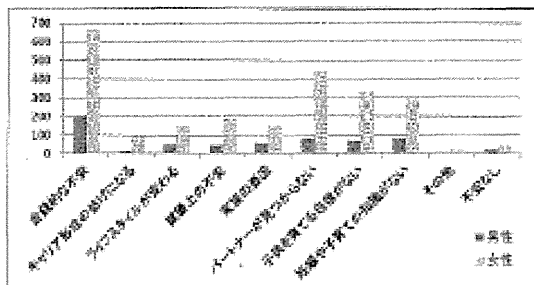
図3：将来子供が欲しいですか？



3. 「子供を望むカップルが避妊していないのに、2年以上妊娠しないこと」が不妊の定義であると知っているのは、男女ともに30%程度であった。また、「30歳を過ぎた頃から妊娠する能力が少しずつ低下すること」を「良く知っていた」、「少しは知っていた」、「全く知らなかった」と答えたのは、それぞれ男性で30%、59%、11%、女性で41%、54%、5%であった。

4. 子供を持つことに対する不安について、複数回答形式で聞いたところ、金銭的不安をあげるものが、男女ともに最も多く、子育てに関する知識や自信がない人も多かった(図4)。

図4：子供が欲しいと思ったときに不安になること(複数回答)



5. 結婚に対する意識に影響を与える要素について解析を行ったところ「自分の健康への関心が高い」と答えた人は、結婚を希望する者の割合が有意に高かった。経済不安が少ない人、実家の経済力が高いと感じている人は、結婚を希望する割合が高い傾向が見られた。同様に、育児希望についても、「自分の健康への関心が高い」、「結婚後、家庭を優先する」と答えた者は、育児を希望する者の割合が有意に高かった。また、経済不安や実家の経済力は、育児希望にも影響を与えていることがわかった。

【考察】

少子化および晩産化が進むと言われる我が国であるが、大学生の意識においては、大多数が結婚、出産を希望しており、結婚や出産を回避する傾向がわるわけではないことがわかった。しかし、人生の中で最も重視する事柄として「子育て」をあげた者は極めて少なく、実際に子供を持つことをイメージできているかについては疑問が残る。また、子供を持つにあたっての不安は、まず「金銭的な不安」であり、次に「子育ての知識」や「自信」がないことに起因することが示された。

さらに、今回の結果から、大学生において、不妊や妊孕力に関する知識が乏しいことが明らかになった。結婚・出産希望に影響を与える要素として、「自身の健康への関心」、「経済力」が高い影響を与えることがわかった。人生において重視することを順序づける質問においても、大学生の健康への関心は驚くほど高く、これが結婚・育児希望の意識にも関与していることが示された。以上より、大学の健康教育を充実させ、その中でライフプランを取り扱い、

自らの結婚・出産について考えさせることは、自らの希望する人生設計を実現させるために、大きな意義があると考えられる。その場合、大学生が感じている金銭的な不安についても十分に時間を使って取り上げ、不安を取り除く必要があると考えられた。

*一部の図は、平成25年度、26年度厚生労働省「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」の報告書において公表しているデータである。

【謝辞】 調査協力をいただいた、金沢大学、福岡教育大学、神戸市看護大学、千葉県立保健医療大学、北翔大学、名寄市立大学、県立広島大学、秋田看護福祉大学、足利工業大学には、心より感謝する。

1)平成25年人口動態統計月報年計(概数)の概況(厚生労働省ホームページ)

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/>

表1：結婚の希望と、参加者の各種背景との関係

			人数		割合(%)		OR	95%CI	p
			結婚したい	結婚したくない	結婚したい	結婚したくない			
経済関連	経済不安	弱い	279	6	97.3	2.7	1.704	0.591-4.914	0.397
		普通	191	7	97.1	2.9	1		
		強い	520	20	95.8	4.4	0.953	0.409-2.237	1
	実家経済力	高い	220	6	97.2	2.8	1.085	0.428-2.743	1
		普通	507	15	96.4	3.6	1		
		低い	283	12	95.3	4.7	0.648	0.304-1.382	0.304
健康関連	健康状態	良い	666	19	97.2	2.8	1.29	0.523-3.191	0.61
		普通	163	6	96.4	3.6	1		
		悪い	161	8	95.3	4.7	0.741	0.262-2.093	0.798
	健康への関心	高い	819	17	98.0	2.0	3.079	1.282-7.410	0.02*
		普通	109	7	94.0	6.0	1		
		低い	66	9	88.0	12.0	0.471	0.173-1.282	0.183
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	236	10	95.9	4.1	1.12	0.492-2.547	0.834
		1日1回	274	13	95.5	4.5	1		
		1日1回未満	480	10	98.0	2.0	2.277	1.006-5.153	0.077

*p<0.05

表2：出産の希望と、参加者の各種背景との関係

			人数		割合(%)		OR	95%CI	p
			子供を持ちたい	子供を持ちたくない	子供を持ちたい	子供を持ちたくない			
経済関連	経済不安	弱い	273	12	95.8	4.2	1.21	0.524-2.796	0.664
		普通	188	10	94.9	5.1	1		
		強い	506	34	93.7	6.3	0.792	0.389-1.613	0.602
	実家経済力	高い	220	6	97.3	2.7	2	0.835-4.782	0.173
		普通	495	27	94.8	5.2	1		
		低い	252	23	91.6	8.4	0.598	0.338-1.057	0.091
健康関連	健康状態	良い	653	32	95.3	4.7	1.148	0.546-2.417	0.69
		普通	160	9	94.7	5.3	1		
		悪い	154	15	91.1	8.9	0.578	0.251-1.332	0.213
	健康への関心	高い	799	33	96.0	4.0	2.794	1.415-5.622	0.008*
		普通	104	12	89.7	10.3	1		
		低い	64	11	85.3	14.7	0.671	0.285-1.581	0.373
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	232	14	94.3	5.7	1.175	0.563-2.366	0.721
		1日1回	268	19	93.4	6.6	1		
		1日1回未満	467	23	95.3	4.7	1.439	0.776-2.670	0.254
仕事と家庭	結婚して仕事を... を...	支えない	442	32	93.2	6.8	1		
		家庭優先	416	14	96.7	3.3	2.151	1.142-4.049	0.022*
		辞める	26	4	86.7	13.3	0.471	0.161-1.364	0.259
		わからない	83	6	93.3	6.7	1.002	0.418-2.406	1

*p<0.05, **p<0.01

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」

平成 26 年度 総括・分担研究報告書

発行日 平成 27 (2015) 年 3 月

編集・発行 「若い男女の結婚・妊娠時期計画支援に関する
プロモーションプログラムの開発に関する研究」班

研究代表者 山本眞由美

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

岐阜大学保健管理センター

TEL : (058)293-2170 FAX : (058)293-2177

E-Mail:myamamot@gifu-u.ac.jp

印刷 中京コピー株式会社

〒461-0001 名古屋市東区泉 3 丁目 30 番 3 号

TEL : (052)931-2611 FAX : (052)931-2366

